二本松市議会

真誠会だより

2024.3月発行
発行者
真　誠　会
〒964-8601 二本松市金色403-1
TEL：0243-55-5143
責任者　佐藤　有

令和6年度一般会計予算総額　306億6,733万4千円

市民が主役　いのち輝く二本松

市民とともに

新しい年の始め国民誰しもが国の平穏と新年の慶びをかわす、元旦の午後、石川県能登半島を大地震が襲った。能登半島を震源とする、最大深度七の大地震が発生し、日本列島を揺るがし、能登半島を中心に多くの建物が倒壊し大規模火災も発生するなど東日本大震災を思い起こす様な大地震でありました。被災された皆様方にお見舞い申し上げると共に、一日でも早い復旧と復興をお祈り申し上げます。

また一方では、未だ終息を見ないコロナウイルス感染症、二年にもおよぶロシアによるウクライナ侵略戦争による物価高騰等、社会情勢更には、自然災害など不安定な昨今であります。

新年度予算案を審議する令和六年三月定例会が開催され本年度の当初予算総額は、三〇六億六七三三万四千円となり、すべての議案が慎重審議されすべて可決承認されました。

目指すべき将来像「笑顔あふれるしあわせのまち二本松」の実現のために計画されている四つの基本目標達成に向けて私ども「真誠会」は、一丸となり、市民が主役市民とともに鋭意努力してまいります。

特に人口減少対策をはじめ、電気料金の値上がりや生活に直結した物価高騰対策など関係機関と連携し経済対策等にも積極的に取りくむ所存であります。

「平和で豊かな住み良い二本松」総合計画四年目、目標達成に向け、五十年、百年先を見据え「持続可能な自立した自治体」の構築に向けた活力に満ち、賑わいのある二本松市実現のため、より一層のご支援ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

真誠会代表質問

桜前線も日ごとに北上し桜の郷日本一を目指す本市にあって名勝霞ケ城公園のサクラ、合戦場や中島の地蔵ザクラなど春の賑わいにより笑顔あふれるしあわせの季節を迎えようとしています。

いよいよ令和六年度がスタートいたします。それに先達、真誠会の代表質問そして会員の一般質問を抜粋いたします。

市政運営方針について

問　令和六年度の各部局の施策の重点方針を踏まえて市長はどのような市政運営をしようと考えているのかお示し下さい。

答　市民が主役、市民とともにを基本に目指す将来像「笑顔あふれるしあわせのまち二本松」実現のため計上した各種施策・事業をより積極的かつ効果的に取り組む、又現在円安物価高騰などの影響により不安定な社会経済状況の中、生活支援対策などスピード感を持ってしっかりと対応する。市民生活の基盤を確かなものとするためイノベーションを興し市民所得の向上、市内総生産の拡大を図り二本松市を成長させたい。さらに少子化・人口減少対策をはじめ子育て支援や福祉・医療の充実・自然災害に備え防災減災対策・産業の振興・居住環境の整備・教育環境の充実など市民の命と暮しを守り子どもからお年寄りまで生きがいと幸せを実感できる平和で豊かな持続可能な自立した二本松市を築いて参りたいと考えております。

局職員と協力、関係機関の皆さんとも連携を図りながら自然豊かで歴史と文化の薫り高い本市の教育の充実発展のために誠心誠意尽力する覚悟です。

その外、観光戦略について
※持続可能な観光地域づくり、インバウンド回復、国内交流拡大戦略について
※二本松グリーンフィールドについて

オープニング記念大会の有無、今後の施設管理について木陰や休憩スペースの設置の考え、ネーミングライツの募集の考えを質問いたしました。

日本サッカー協会 JFA 公認サッカー場

一般質問

原子力災害からの復興・創生について

問　処理水の海洋放出を巡り嫌がらせ電話の状況と業務支障への影響は。

答　海外や非通知電話が一七九件の入電があり、通常業務への支障は多々ありました。

問　インバウンド（訪問客）の宿泊予約のキャンセルの影響は。

答　岳温泉観光協会への確認では宿泊予約のキャンセルは、発生していない。

問　風評被害が心配されるが、本市での風評対策は。

答　処理水放出後の新宿西口や浅草寺で開催した、地場産品フェアや観光物産展でのアンケート調査の結果では「気にせず購入する」が九十三％から九十六％を占めているが約五％が「購入しない」と回答されていることから、風評払拭の取り組みに今後も継続していく必要がある。

問　市民の県内・県外への自主避難世帯数と避難者数は。

答　県外への自主避難者数は一七二世帯四六五人、県内へは九世帯三十五人で合計一八一世帯五〇〇人です。

問　福島県復興公営住宅の方針を、市はどのように把握されているか。

答　県は、一般県営住宅としての活用や市町村への移管等の具体的な活用方針は、現時点では具体的に策定されていない。

問　東京電力に対し損害賠償請求額及び支払額の状況は。

答　一般会計では、請求額二十六億七，四九六万六千円に対して一億七，九七二万二千円の支払額で、支払い率は六・七％です。特別会計を含む企業会計では請求額九，五八三万七千円で三，八〇三万七千円で三九・七％の支払いです。

文化団体の活動支援について

問　文化団体の実情をどの様に把握しているか。

答　二本松市文化団体連合会への加盟団体数は一〇九団体、会員一，五七七人で、前年度より七団体、一二二人の減となっており、団体数、会員数ともに減少しており高齢化も進んでいる状況となっております。

問　無形民俗文化財の継続が危ぶまれている現状の打開策を伺う。

答　文化財は次の世代へと途切れなく、保護・継承されるよう、保存団体に「無形民俗文化財保存伝承活動奨励金」の交付や後継者不足により継承が危惧されている地域伝統芸能には「一般財団法人地域創造」の補助制度を活用しての映像記録の保存、学校に於いては郷土学習授業の中で、子ども達の地域伝統文化活動への参加、文化財保存のため、衣装や道具等の修理などについても国の制度を活用した補助を行う。

市内四文化ホール舞台操作・音響照明等業務は

問　市道百目木・南戸沢線と市道針道・西谷線は

問　市内四文化ホール舞台操作・音響照明等業務に違いがあるのか、業務委託のメリットは。

答　市内四つの文化ホールが有り、規模や設備に違いはあるが、業務内容はほぼおなじである、専門的知識を有する業者や団体に、舞台操作をお願いすることで、利用者が安心して催事を行えることが一番のメリットであり、今後も業務委託を継続して行く考えである。

問　市道百目木・南戸沢線の竣工はと市道針道に西谷線の道路改良着工時期は。

答　市道百目木・南戸沢線の道路改良工事は平工区延長約二〇〇m、幅員四・五mを六・五mに拡幅改良工事を行うもので、令和六年度完了を目標に進めている。完了後、平工区の延長一一〇mの改良拡幅工事を計画している。また、市道針道・西谷線の未改良区間二，一〇〇mの改良計画は、長期総合計画の生活幹線道路整備事業として過疎対策事業を財源に計画し、百目木・南戸沢線の進捗状況等を総合的に判断しつつ、財政計画も十分考慮し、事業着手を検討して行く。

組織の改編と人事配置について

問　令和五年末で六名の部長職が役職定年となるが、市の組織や人事に大きな影響があると思うが組織の改編や人員配置についての考え方を伺います。

答　これまで職員の先頭に立って職務に邁進された六名の部長職が役職定年を迎えますがこれに伴う組織の改編の予定はなく、新年度においても経験を生かし、それぞれの職場で引き続き市政発展に尽力いただきたいと考えております。後任の部長職につきましては、人物本位を基本に能力・指導力・統率力等を十分に考慮し選任したいと考えております。課長職を含め適切な人事配置に努めてまいります。

本市の教育行政について

問　新教育長の所信とその取り組み方について伺います。

答　前教育長の築かれた教育基盤やその思いを大切に本市の子どもたちが充実した学びの環境のもと、たくましく心豊かに成長し未来を切り抜いてゆくことができるよう、また生涯学習・文化・スポーツ等の活動を通して市民の皆様が豊かで充実した生活を送ることが出来よう教育委員、事務

問　事業予算を捻出するため、「ガバメントクラウドファンディング」を活用する考えは。

答　自治体の題解決のため寄付金の使い道を具体的にプロジェクト化して賛同者から寄付を募る仕組みとして可能であると考えるため、初期投資を抑える手法として調査・研究してまいります。

問　開館して一年間が経過した二本松歴史館の現状認識と来館者を増やす改善策は。

答　二本松歴史館の一年間の来場者数は常設展示室が二二，〇二二人、企画展示室が二五，〇五九人で合計四七，〇八一人でした。今後はお客様の声をより多く把握し、分析して常設展示室ではテーマ性を維持した展示資料の入れ替えを図り、ＳＮＳ等を活用して積極的にアピールをしてまいります。

問　出産祝い品として（オムツ・ミルク・お尻ふき）などを贈呈している自治体があるが当市で検討しては。

答　当市では、母子手帳交付時に五万円、出生届後に五万円の合計十万円を現金支給しております。他の自治体でオムツ等の支給をしている自治体があることは把握しておりますが、お子様方の体形や体質が異なるため現物での祝い品の贈呈は考えておりません。

問　デュアルスクール制度を当市として導入する考えは。

答　令和四年十二月議会にて本市のみの問題としてとらえるのではなく、福島県全体で考えていくと答弁しており、今後も研究して参ります。

問　ふるさと納税の返礼品の写真掲載方法の改善について。

答　今年度よりふるさと納税代行業務委託を市内の地域商社へ変更し経済の好循環とふるさと納税の増額を図るため、ポータルサイトの管理や新たな返礼品の企画提案等、地域商社の強みを生かした対応を行っている。写真掲載方法は、返礼品提供事業者の皆様と個別に協議し、委託事業者のノウハウを活用し既存のものも含め順次、撮影や写真の加工を進めており一割程の返礼品の写真がリニューアルされている状況。

問　アウトドア事業としてＲＶパークの設置、あだたら高原野営場の冬季活用について。

答　ＲＶパークに認定される条件であるトイレや電源の整備、ごみの受け入れ及び処理についても経費を伴うことから指定管理者と情報交換しながら今後の方向性を研究していく。また、あだたら高原野営場は冬期間の利用者を見込めず、水道の凍結や駐車場、敷地内の除雪など維持管理の負担の課題があり慎重に検討する。

問　消防団報酬の詳細及び入金額がわかりにくいため、改善することはできないか。

答　令和４年度より団員の個人口座に振込しており、団員報酬の振込日、入金額は消防団幹部会を通じて団員にお知らせしているが、団員報酬なのか分かりにくい状況となっている。今後、支給明細が届くよう消防団幹部会を通じて依頼するとともに、振込者名についても金融機関等と協議する。

問　移住定住の窓口を一本化し、手続きをしやすくすることはできないか

答　秘書政策課の総合政策係及び各支所に定住支援員を配置し、相談や情報提供、支援等を行っているほか、移住支援アンバサダーにも協力等をお願いしている。移住したい方が地域との関係性を構築できるよう、定住支援員等と連携し、地域と密接につながった相談環境を整えていく。また、市役所内やウェブサイト内での分かりやすい表示や相談イベント等の際には相談窓口を全国に発信できるように心掛ける。

問　マイナンバーカードの盗難や紛失の対応と再発行の手続き及び使用上のトラブルは。

答　マイナンバー総合フリーダイヤルへ連絡し、カード一時停止を受け、「個人番号カード紛失・廃止届」を提出し、再交付の手続きを行う。千円の手数料必要となる。また、使用上のトラブルは確認はされていない。

問　空き家実態と「特定空家」の軒数今後課題については。

答　令和五年七月現在八二一件の空き家があり、リアルタイムでの把握はしていないが、行政区長等から管理不全について情報提供を受けた場合は、家屋所有者等に連絡し、改善に向けた対応をお願いしている。特定空家は三件あり、課題と対策については、倒壊すると不特定多数の方に影響を及ぼす危険な空き家が複数あり、所有者へ適切な管理を指導・勧告等していく。

問　不動産の所有権不明土地は天水場としての農業用ため池設置は相続人の調査及び登記義務化の周知は行っているのか。また、所有権不明土地で整備事業等の足かせになっている場所はあるか。

答　市外の自治体を含め、住民票や戸籍を請求するなど、推定相続人の調査をし、可能な限り適正な課税に努めている。令和六年から相続登記申請義務化については、広報や固定資産納税通知書に同封のパンフレットで周知を図っており、今後も、福島地方法務局と連携し周知を図っていく。また、市で進める整備事業において、用地買収が必要な箇所で、所有者不明の土地はないため進捗が滞っている事業はない。

問　水田から農業用ため池に変更する際の問題点や設置に対する支援は。

答　農用地等の用途区分の変更や農地転用許可が必要となる場合がある。農業者等が共同で設置する場合、市の単独事業の農業施設整備補助金（事業費の二分の一以内、補助上限百万円）による支援を行っている。

問　森林環境譲与税の見直しによる対応について

問　市内小中学校の出前・探究授業について

問　令和六年度森林環境税の非課税世帯の取扱いと森林環境譲与税の活用について伺う。

答　森林環境税は国税であり、温室ガス排出削減や災害防止等を図るため、森林整備等に必要な財源を安定的に確保するもので、令和六年度から個人に対し年額一千円を課税する。税収は森林環境譲与税として自治体の人口、私有林人工林面積や林業就業者数に応じ配分される。非課税の基準は個人住民税均等割額の基準と同様である。森林環境譲与税は森林環境整備基金へ積み立てるほか、森林整備、経営管理に関する意向調査実施準備等にかかる業務委託、移動式チッパーの購入などに活用している。

問　市内小中学校の出前授業や探究活動について。

答　県は、子どもに必要な資質等を育成するため、画一的な授業から、協働的・探究的な学びへ変革を進める「学びの改革」を掲げ、市としても、自らが課題設定し、出前授業等の体験的な学びや情報の収集、整理分析、まとめ表現する協働的な学びによる探究的な学習を推進している。

市長に要望書を提出する真誠会員

令和6年度一般会計予算　主な概要

令和6年年度一般会計予算総額306億6,733万4千円として歳入歳出それぞれにおいて、「市民が主役。市民とともに。」を基本にて目指す将来像「笑顔あふれるしあわせのまち二本松」の実現のため、積極的かつ効果的に各種施策を全力で進めます。現在、地方自治体を取り巻く環境、極めて厳しい状況が続き、物価高騰対策をはじめ、変動する社会経済環境にしっかりと対応するとともに、市民の暮らしの基盤を確かなものと致します。

一般会計当初予算案の主な事業

（単位は万円、千円以下切り捨て。○は新規事業）

健康で暮らし続けられるまち

○障がい者福祉施設等整備事業　1,529千円
・温泉等利用健康増進事業　4,071千円
・生活習慣病予防事業（各種健診及びがん検診の実施）　11,984千円
○食で健康プロジェクト事業　49千円

地域の誇りに満ちた活力あるまち

・市民との協働のまちづくりを推進する地域づくり推進事業　31,800千円
・新規就農者支援事業　95,947千円
・移住・定住促進事業　2,674千円
・道の駅「ふくしま東和」管理運営事業　1,694千円
○霞ケ条公園整備事業　3,003千円
・あだたら渓谷自然遊歩道整備事業　7,500千円

世代をつないで人を育むまち

○住んでにほんまつ空き家対策総合支援事業　1,518千円
○こども家庭センターの設置　3,448千円
・学校給食センター施設、設備等改修等事業　19,332千円
○学習支援事業「土曜学び塾」　350千円

安全で快適な暮らしのあるまち

○地域猫等不妊去勢手術補助　24千円
○生ごみ処理機等購入補助　100千円
○居住誘導区域内住宅開発推進助成制度　600千円
・二本松駅南地区整備事業　22,187千円

その他の重点施策

○EV車導入の推進　828千円
・公共施設LED証明改修事業　41,419千円
・行政事務デジタル化の推進　4,198千円

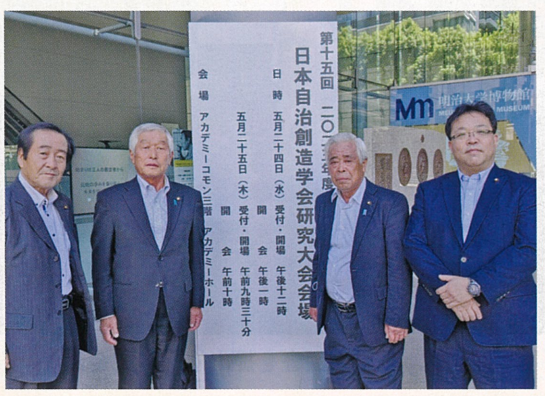
【賛成討論】　令和6年度一般会計予算について

令和6年度当初予算は新年度の行政における行動指針となるものであり、本市の最上位計画である二本松市総合計画の4年目を迎えますが、目指す将来像として「笑顔あふれる　しあわせのまち　二本松」を掲げており、その実現に向けてこれまでの成果を土台として、83事業を重点事業として、9つの拡大事業や市民の要望、市民ニーズに沿った事業などで、学力向上支援事業、犯罪被害者等支援事業、移住者や新婚・子育て世帯への空き家対策総合支援事業など14の新規事業を加えたことは、積極的かつ効果的な事業であり、決断力・実行力・スピード感をもって各事業に全力で取り組む市政運営は、高く評価し期待するものであります。

研修会参加報告

●**令和六年二月六日**に「まち保育」のススメとして講義を頂きました。今現在のまちには「地域社会で群れてまねる子育て」をどう捉えるかの観点が不足しているということで、施設整備の際にはスペースに遊び（隠れ家的）な余裕や、当事者が面白いと思えるような施設づくりが肝要との講義でした。

「自治体財政の見方やポイント」では、人口減少が進み地方税の税収が減っていくことが予想される状況化での財政運営についてのご講義で、「ふるさと納税」に頼り切った財政運営は危険であることや法定外税（空き家税・ホテル税・産業廃棄物税・再生可能エネルギー地域共生促進税）など多様な課税に対してのご案内を頂きました。講義後の質問にて空き家税（京都府が二〇二六年度から実行予定の非居住住宅利用促進税）は現在では全国で八二〇万戸もの空き家が現存する日本国として国が主体として課税すべきと質問しましたところ、金目教授も同意見でした。

●**令和六年二月七日**に「国際的な食糧需給情勢と真の食料安全保障」の講義では、農業の現状をご教示頂くとともに、日本国内での食の安全のため種の安全を条例等で守ることや海外からの食品輸入品の危険性をご教授頂きました。

「生成ＡＩ　政治・行政での活用」については今現在のＡＩ技術の進歩状況や今後の人間とＡＩとのかかわり方などのご講義を頂きました。講義後の質問でサムスンで同時通訳機能が付いたスマートフォンを発売したが、今後の英語教育の必要性は？と質問をしたところ将来の外国語教育の必要性は無くなると思うが、微妙なニュアンスの判断やジェスチャーによる感情の表現など人間には多様な意思疎通方法もあることから完璧に不要になるとは言いづらいとのご回答やＡＩが正確に通訳することの懐疑的な意見もありました。